

第13回国際道路会議の議題とプログラム

広 川 榆 吉*

第13回国際道路会議は、いよいよ今秋11月に東京プリンスホテルにおいて開催されることとなったが、アジア極東地域における初の国際道路会議の開催は、わが国にとってきわめて意義深いものがある。

わが国では、この国際会議が十分な成果をあげるようすでに過去3年にわたり準備を進め、具体的には第13回国際道路会議日本組織委員会および日本実行委員会が設けられて事務を推進している。

以下、第13回国際道路会議に関する概要と会議議題およびプログラムを中心に紹介することとする。

1. 会議の名称

和文名	第13回国際道路会議
仏文名	XIII ^e Congrès Mondial de la Route
英文名	XIII th World Road Congress

2. 会議を組織する国際学術団体

名称	常設国際道路会議協会
仏文名	Association Internationale Permanente des Congrès de la Route
英文名	Permanent International Association of Road Congresses
会長	Mr. A. RUMPLER
所在地	43, Avenue du Presiden, Wilson, Paris (16 ^e me), France

3. 会議の過去の開催状況

年度	回	開催国	都	市
1908	1	フランス	パ	リ
1910	2	ベルギー	ブ	セル
1913	3	スイス	ロ	ン
1923	4	スペイン	セ	ヴ
1926	5	イタリヤ	ミ	ラ
1930	6	アメリカ	ワ	シ
1934	7	ドイツ	フ	ン
1938	8	オランダ	ハ	ム
1951	9	ポルトガル	リ	ス
1955	10	トルコ	イ	ス
1959	11	ブラジル	リ	オ
1964	12	イタリア	ロ	マ

* 正会員 建設省道路局企画課建設専門官

4. 会議の性格

常設国際道路会議協会 (PIARC) は道路の建設、改良、維持および利用の進歩を助成し、もって広く世界の道路の発達に寄与することを目的とする国際技術協力機関であり、また国連協力機関でもある。

協会会員は各国政府、公共団体、民間団体、個人から構成され、その運営は各国代表、実行委員会委員等からなる常設国際委員会が行なっている。

PIARC の活動の主なものとしては4年ごとの国際道路会議の組織、管理のほか、国連活動への協力、道路辞典の編集、その他各種技術委員会の運営等がある。

国際道路会議は会議ごとに決められる道路の計画、設計、建設等全領域にわたる議題に関して各国政府から提出される報告書を基礎にして総括報告者を中心とした討議が行なわれ、議題ごとに会議結論が作成される。

この結論はいずれも各国における長年にわたる道路整備の実績と研究の蓄積から得られたものでありその内容については各国ともこれを重要視し各国内の道路整備の進展と道路技術の発達のために積極的に役立てている。

5. 日本開催についての経過

国際道路会議は、その第1回会議を1908年にパリで開催しており、最近の第12回会議は1964年ローマで開催された。わが国は第1回会議以来第9回会議をのぞいて毎回政府代表を派遣して国際道路会議に積極的に参加してきた。国際道路会議をわが国で開催する機運は、1955年に第10回国際道路会議がイスタンブールで開催された際から各国代表、PIARC事務局の間にこの会議を日本で開催する希望が非公式に表明されていた。

これに対し日本国内委員会 (日本道路協会) は道路建設の飛躍的発展をとげた日本において遠からず国際道路会議を開催する必要があり、その意義も深い、開催時期はオリンピック東京大会以降が望ましいという意向をもっていた。

その後この件に関し1964年5月ローマで開催された

第 12 回国際道路会議の際、常設国際委員会において日本政府代表(首席代表 鴨田建設政務次官一当時)は第 13 回会議を日本に招請する意志のあることを表明した。

わが国としては国際的地位の向上、道路の調査、研究その他広い分野における国際協力、技術協力、技術交流等の見地から第 13 回会議をアジア極東地域における初の会議として本邦に招請することは意義があり、時期的にも東名高速道路、中央自動車道等の見学できる昭和 42~43 年頃が会議開催の好期と考えていた。ここにおいて政府は第 13 回会議をわが国に招請することとし、昭和 39 年 10 月 23 日の閣議了解に基づき、昭和 40 年 2 月 5 日日本政府代表(菊池 明建設省専門委員)が常設国際委員会に招聘状を提出し 42 年 11 月に第 13 回会議を東京において開催することが満場一致で決定した。

6. わが国における会議開催の準備

以上のような経緯を経て、わが国で国際道路会議が開催されることとなったが、昭和 40 年 4 月 2 日には、つぎのとおり閣議において会議開催についての了解がなされた。

第 13 回国際道路会議をわが国で開催することについて
(昭和 40 年 4 月 2 日)

(閣議了解)
(建設省)

1. 第 13 回国際道路会議を 1967 年(昭和 42 年)に東京都において開催する。
2. 関係各行政機関は上記会議の開催に関し所要の措置を講ずるものとする。

この閣議了解に基づき会議開催の責任をもつ組織として昭和 40 年 5 月 12 日に第 13 回国際道路会議日本組織委員会が設けられ、引続いて、これに協力して具体的準備を進める組織として昭和 40 年 7 月 20 日に第 13 回国際道路会議日本実行委員会が設置された。これらの構成の概要はつぎのとおりである。

日本組織委員会	委員長	建設大臣
	事務局長	建設省道路局長
	委員	7 名
日本実行委員会	委員長	菊池 明 (日本道路協会会長)
	事務局長	高野 務 (日本道路協会副会長)
	委員	33 名
同事務局	事務局員	68 名
	論文事務編集班	67 名
	ワーキンググループ	59 名

また、昭和 40 年 10 月 27 日には建設大臣、道路局長と PIARC 会長との間に第 13 回国際道路会議に関する協定書の調印が行なわれ、この協定に基づいて諸般の

準備が進められている。

7. 会議概要

会議は 7 つの議題を中心に進められるが、会議開催前に各国から提出されたナショナル レポート(26 カ国から 126 編提出)を、議題ごとにあらかじめ指定された 7 人の総括報告者がまとめる形式がとられる。すなわち、会議では議題ごとの部会で総括報告者から総括報告がなされ、ついで討議が行なわれ、議題ごとの結論原案作成委員会において最終的な結論案を作成する。この結論案は会議最終日の本会議でこれを討議決定する事となっている。

なお、会議では 7 議題の部会関係の他に PIARC に常設されている各種の技術委員会の報告とこれに対する討議が併行して行なわれる。

各部会の議長、副議長には通常、会議招聘国が当ることとなっており、つぎのように決定した。

議長 第 1, 第 2, 第 4 議題およびローコスト道路技術委員会

近藤 泰夫(京都大学名誉教授)

第 2, 第 5, 第 6, 第 7 議題およびトンネル技術委員会

星 埜 和(東京大学教授)

副議長 片平 信貴(日本道路公団理事)

村上 永一(日本道路公団常任参与)

三野 定(近畿地建局長)

内田 一郎(九州大学教授)

伊丹 康夫(国土開発株式会社)

岸 文雄

谷 藤 正三(日本大学教授)

山田 順治(日本セメント研究所長)

米 谷 栄二(京都大学教授)

大塚 全一(東京都建設局道路監)

後藤 明治(神奈川県土木部長)

藤 森 謙一(日本道路公団理事)

武田 文夫(日本道路公団企画調査部)

板 倉 忠三(北海道大学教授)

高橋 国一郎(建設省道路局地方道課長)

住 友 彰(橋梁コンサルタント)

比留間 豊(日本道路公団高速道路計画部長)

8. 会議議題

(1) 第 I 議題 一般問題

総括報告書: Mr. Saccasyn,
ベルギー

1-1. 舗装設計

——理論的研究

——道路管理者によってなされた諸試験結果
(AASHO ロードテストを含む)

- その応用
- 交通と路床土を考慮した新しい舗装の実用的設計法
- 補強の計算（融雪により弱化した道路を含む）、たわみの測定

1—2. 路面の性質

1—2—1. 平坦性：

- 測定装置
- 平坦性の要求，満足させるための方法
- 平坦性の欠陥：その原因・一時的修正

1—2—2. 表面の粗さ：

- 測定装置
- 表面の粗さの要求，満足させるための方法
- 表面の粗さの欠陥：その原因・一時的修正

1—3. 排水

- 路体内の排水
- 表面水の排水

1—4. 道路と道路付属施設の維持

1—4—1. 道路と維持の設計

- 舗装厚さ
- 横断形状の選択と路肩処理

1—4—2. 車道舗装の維持

1—4—3. 道路付属施設の維持：路肩・自転車道・道路標識等

(2) 第II議題 路線計画，土工

総括報告者：Mr. Thiébault,
フランス

- 2—1. 路線計画のための予備調査
- 2—2. 路線計画の幾何学的検討，電子計算機の利用
 - 測図，線形計画・土工量・諸元計算
- 2—3. 土工計画の物理的検討
 - 盛土利用における切土の分類のり面の安定
 - 盛土の転圧と整形
- 2—4. 舗装に接触する土工の上部部分
 - 形状の処理
 - 下層路盤，雨と凍結に対する防護
 - 道路の構造厚さに対する影響
- 2—5. 土工
 - 土工契約の準備
 - 土工
 - 施工管理

- 他種工事をともなう土工の計画
- 2—6. 特殊な場合
 - 支持力の低い路床土上の道路
 - 地すべり・崩壊地・または飛砂地帯の道路
 - 塩性土上の道路

(3) 第III議題 たわみ性舗装

総括報告者：Mr. Balaguer,
スペイン

3—1. 路体

- 下層路盤，その材料
- 上層路盤，その材料
- 基層の転圧，各種機械の比較
- セメントで処理された基層およびその上の表層に現われるひびわれ
- 化学的安定処理

3—2. 表層

- 表層の粒度配合
- すべり性と老化に及ぼすフィラーの作用
- 結合材・特にパラフィン基石油から作られたアスファルトの性質の改善，実験室における研究
- 交通による表層形状の変化
- 合材の製造・敷きならしおよび転圧，合材プラントの防塵
- カラー舗装
- きわめて薄い表層

3—3. その他

- 重機械の使用を考慮したたわみ性舗装の設計
- 瀝青結合材以外の材料（樹脂等）を用いた表面シール
- 塩の作用

(4) 第IV議題 剛性舗装

総括報告書：Mr. Schneck, ドイツ

4—1. 路盤

- 4—1—1. 路盤の形式
- 4—1—2. 路盤の整正

4—2. コンクリート舗装版

- 4—2—1. 舗装版の厚さと鉄筋
- 4—2—2. 目地：形式・間隔・荷重の伝達・かみ合せ目地
- 4—2—3. コンクリート製造および敷きならしの自動化
- 4—2—4. 移動型わくを有するフィニッシャー
- 4—2—5. 舗装版内の温度変化

- 4-2-6. PC舗装
- 4-3. その他
 - 4-3-1. コンクリートの品質改良剤の使用
 - 4-3-2. コンクリートに対する塩の作用

(5) 第V議題 交通との関係における道路の構造規格

総括報告者：伊吹山四郎，日本

- 5-1. 自動車と道路の相互作用
 - 自動車の走行つり合いにおよぼす舗装タイプの影響
 - タイヤの性質との関連における路面の磨耗
- 5-2. 道路および高速道路の幾何構造，その道路の使用と使用者の安全への影響
 - 5-2-1. 一般部分：
 - 用地幅
 - 線形・縦断および横断
 - 5-2-2. 交差点とインターチェンジ：
 - 一般道路（高速道路でないもの）における平面交差・立体交差の選択基準
 - 交差点およびインターチェンジの設計と分類
 - 5-2-3. 道路の景観
- 5-3. 道路の安全施設
 - 側帯，ガードフェンス，眩感に対する方策
 - 道路標識とマーキング
- 5-4. 道路の付属施設
 - 休息所・駐車場，サービスステーション・レストラン等
- 5-5. 道路とその近傍，公害の研究
 - 公害：騒音・汚染等
 - 道路の質および交通量の影響
 - 道路の影響：堀割式・地表面式・高架式
 - 防護の方策，しゃへい物（植樹・のり面・その他）

(6) 第VI議題 都市内道路網

総括報告者：井上 孝，日本

- 6-1. 都市内道路の設計
 - 地方部道路との相違点，規格
 - 現行設計または計画中的設計
- 6-2. 都市内道路工事の施工
 - 工事の調整
 - 工事施工におよぼす交通の影響，工事の

促進

- 地下埋設工事にもなう修繕工事
- 6-3. 都市高速道路，都市内自動車道路の建設
 - 地下・高架・堀割式の建設
 - 構造規格・美観，交通の管理，段階建設
- 6-4. 歩道と歩行者対策
 - 都市内道路の歩道の設計とその建設，歩行者による車道の横断
 - 歩行者のための立体施設
- 6-5. 共同溝問題
 - 地下利用の組織化
 - 共同溝網
- 6-6. 公害とその防止
 - 騒音，振動，ばい煙と有毒ガス，事故
 - 清掃

(7) 第VII議題 経済問題

総括報告者：Mr. Durie, イギリス

- 7-1. 経済理論と道路事業の経済調査との関連
 - 一般的な場合
 - 発展段階における経済性
 - 道路建設費の償還期限
- 7-2. 地域計画と経済発展におよぼす道路網の影響
 - 一般的な場合
 - 発展段階における経済性
- 7-3. 道路網計画と投資計画
 - 一般的な場合
 - 発展段階における経済性
 - 経済交通容量
- 7-4. 支出の評価：
 - 自動車運行費（道路の構造と交通との関連において）
 - 道路建設費（舗装の性質と交通との関連における維持修繕費）

9. 会議プログラム

会議第1週の会議は11月5日から11日まで東京プリンスホテルで開催されるが、引続き12日から17日までは見学旅行が行なわれる。なお、会議公用語としては、仏、英、日がいられる。

(1) 会議第1週の会議プログラム

11月3日(金)

9.00~17.00 登録受付および資料配布(東京プリンスホテル2階)

11月4日(土)

9.00~17.00 登録受付および資料配布(東京プリンス)

スホテル2階)

- 9.30 PIARC 実行委員会(サンフラワーホール)
11.00 PIARC 常設国際委員会(サンフラワーホール)
12.30 日本組織委員会および日本実行委員会主催昼食会〔PIARC 常設国際委員会委員夫妻;平服〕
14.30~17.00 ※東京観光

11月5日(日)

- 9.00~17.00 登録受付および資料配布を継続(東京プリンスホテル2階)
10.30 開会式(プロビデンスホール)
14.30~17.30 ※東京の高速道路見学
18.30 部会議長および書記,総括報告者並びに技術委員会委員長の連絡会議(サンフラワーホール)
19.00 PIARC 実行委員会主催夕食会〔総括報告者,技術委員会委員長,日本組織委員会委員,日本実行委員会代表委員夫妻;平服〕

11月6日(月)

- 9.30 部会〔第I議題および舗装構造設計技術委員会報告書の検討〕(プロビデンスホール)
14.30 部会〔第VI議題〕(プロビデンスホール),部会に引続き第Iおよび第VI議題結論原案作成委員会(サンフラワーホールおよび316号室)
17.30~19.30 コミュニケーション(サンフラワーホール)
14.30~17.30 ※レディース・プログラム—その1—

11月7日(火)

- 9.30 部会〔第II議題および材料試験技術委員会報告書の検討〕(プロビデンスホール)
14.30 部会〔第VII議題〕(プロビデンスホール),部会に引続き第IIおよび第VII議題結論原案作成委員会(サンフラワーホール)
19.00 東京都知事主催レセプション〔被招待者全員;平服〕

11月8日(水)

- 9.30 部会〔第III議題〕(プロビデンスホール)
14.30 トンネル技術委員会及びすべり技術委員会報告書の検討(プロビデンスホール)及び第III議題結論原案作成委員会(サンフラワーホール)
14.30~17.30 ※レディース・プログラム—その2—

11月9日(木)

- 9.30 部会〔第IV議題およびコンクリート舗装技術委員会報告書の検討〕(プロビデンスホール)
12.30 日本政府主催昼食会〔PIARC 常設国際委員会委員夫妻,各国首席代表夫妻,総括報告者夫妻,部会議長夫妻,各技術委員会委員長夫妻;平服〕
15.00 ローコスト・ロード技術委員会および冬期交

通技術委員会報告書の検討(プロビデンスホール)および第IV議題結論原案作成委員会(サンフラワーホール)

11月10日(金)

- 9.30 部会〔第V議題および交通と安全技術委員会報告書の検討〕(プロビデンスホール)
14.00~18.00 コミュニケーションと映画上映〔プロビデンスホールおよびサンフラワーホール(16時まで)〕
13.30 第V議題結論原案作成委員会(316号室)
16.30 各議題結論原案取りまとめ委員会(サンフラワーホール)
19.30 日本政府主催レセプション〔被招待者全員;平服〕

14.30~17.30 ※レディース・プログラム—その3—

11月11日(土)

- 9.30 最終結論の全体討議(プロビデンスホール)
11.00 閉会式(プロビデンスホール)
13.30~18.30 ※土木研究所(千葉支所)見学
道路写真および出版物展
〔11月3日(金)~11月11日(土)9.00~17.00〕
各国における道路技術の最近の成果を発表し,情報を交換する写真および出版物展が日本組織委員会主催により,上記期間中東京プリンスホテルのカメリヤルームで開催されます。

〔プログラムのうち※印は国外参加者のために準備されたものです〕

(2) 見学旅行プログラム

- Aコース,11月12日~17日 6日間:東京—富士—箱根—名古屋—伊勢—奈良—京都—神戸—東京
Bコース,11月12日~17日 6日間:東京—北九州—別府—阿蘇—雲仙—長崎—福岡—大阪—京都—名古屋—東京
Cコース,11月12日~15日 4日間:東京—京都—神戸—大阪—奈良—名古屋—静岡—東京
Dコース,11月12日~15日 4日間:東京—名古屋—豊田—熱海—富士箱根—東京

10. その他

第13回国際道路会議にはPIARCの永久会員,一時会員が参加できるが,今回は特に日本人特別一時会員の制度が設けられ,参加できることとなった。

なお,本会議には現在のところ外国人約600人,日本人約700人が参加するものと予定されている。

<特集・最近の道路問題/終>